

1 ALP（アルカリホスファターゼ）が高いのはどんなときですか？

ALPは、肝臓、胆管、骨、小腸、胎盤などで作られる酵素タンパクです。これらの臓器が障害されたときにたくさんのALPが血液中に流れ出して値が高くなります。そのため、肝臓や胆嚢、胆管の病気や骨の病気、腸の病気などで増加します。しかし、病気以外でも骨が成長する時期や妊娠で胎盤ができ上がるとき、あるいは血液型によっても高い値を示す場合があります。

検査のはなし vol.12

専門医が教える 職場や市町村による健康診断での
検査結果をみたとき 異常値の意味と改善法…5

「ALP（アルカリホスファターゼ）」

2 ALPのアイソザイム検査では何がわかるのでしょうか。

ALPの成分は分泌される場所によって少しずつ異なるので、タイプ分けが可能です。これを「アイソザイム」と呼びます。ALP1、2型は肝臓、3型は骨、4型は胎盤、5型は小腸で産生され、ALP6型はALP結合性免疫グロブリンです。ALPが高いときにアイソザイム検査を行うと、病気のありかを推定することができます。例えば、ALP1型と2型は胆石や腫瘍などで胆汁の流れが悪くなると上昇します。ALP3型は、骨折、骨粗しょう症、がんの骨転移や甲状腺機能亢進症で高くなります。ALP4型は卵巣癌や肺癌、ALP5型は小腸粘膜が傷ついたときや肝硬変、ALP6型は潰瘍性大腸炎などで上昇することがあります。



日本臨床検査専門医会
田部 陽子

4 治療が必要でしょうか。

わずかに高いくらいで、他の検査項目に異常がない場合は、定期的な検査で経過を観察します。基準値の2倍くらいに高いときや自覚症状があるときには、主治医に相談してください。

3 正常でもALPが高いことはあるでしょうか。

ALPが高いことが必ずしも病気とは限りません。成長期には骨のALP(ALP3型)が増加し、成人の3～5倍の値を示します。妊娠中には胎盤がつくるALP4型が基準値の2～3倍になります。また血液型がB型やO型の人、脂肪食のあとに小腸でALP5型が活発につくられてALPが上昇します。このような変化は生理的変動と呼ばれ、病気ではありません。

図

